

和暦	文政	文化	文化	文政	文政	嘉永	嘉永	嘉永	弘化	弘化	弘化	天保	天保	天保	天保	天保	天保	天保	天保	天保	天保	天保	天保	天保	安政	安政
われき	ぶんせい	ぶんか	ぶんか	ぶんせい	ぶんせい	かえい	かえい	かえい	こうか	こうか	こうか	てんぽう	てんぽう	てんぽう	てんぽう	てんぽう	てんぽう	てんぽう	てんぽう	てんぽう	てんぽう	てんぽう	てんぽう	あんせい	あんせい	
	一〇年	一二年	一二年	元年	元年	元年	元年	元年	二年	二年	二年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	四年	
	10	12	12	1	1	1	1	1	2	2	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
	1827	1829	1829	1818	1818	1818	1818	1818	1847	1847	1847	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1838	1855	1857	
	16さい	18さい	18さい	7さい	7さい	7さい	7さい	7さい	36さい	36さい	36さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	44さい	46とし	
千支	丁亥	丁丑	丁丑	戊寅	甲申	癸卯	癸卯	癸卯	乙巳	乙巳	乙巳	辛丑	辛丑	辛丑	辛丑	辛丑	辛丑	辛丑	辛丑	辛丑	辛丑	辛丑	辛丑	丁巳	丁巳	
せいれき	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	せんし	
西暦	1827	1827	1827	1818	1824	1831	1831	1831	1845	1845	1845	1841	1841	1841	1841	1841	1841	1841	1841	1841	1841	1841	1841	1857	1857	
年齢	16さい	18さい	18さい	7さい	13さい	20さい	20さい	20さい	30さい	30さい	30さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	27さい	44さい	46とし	

事項／絵金と土佐美術

10がつ1日に、高知城下新市町（現在のはりまや町）に髪結いの子として生まれる

一月三日、弟寅七生まれる

このころ仁尾鱗江に絵を習う

河田小龍生まれる

このころ池添楊齋美雅に入門、美高の号をもらう

二月一五日、送別会が開かれ、一七駕籠かきとなって出立

江戸土佐藩御用絵師前村洞和と、駿河台狩野・狩野洞益に習う

前村洞和より洞意号をもらう

江戸より帰国、土佐藩家老桐間家の御用絵師となり、林洞意と名のる

九月六日、仁尾鱗江没（六〇）、師の追悼書画帖に尽力する

楠瀬大枝没（六〇）

寄書「墨竹図」に島本蘭溪、壬生水石らとの「敬載」の号で寄せる

八月、長男房太郎生まれる

河鍋暁齋、前村洞和に入門

池添楊齋没（五一）

「林金蔵 号洞意 蓮池町 山内国幸画師」として知られる

長女糸萩生まれる

このころ贋作事件起きるか 弘瀬柳栄と名のる

弘瀬洞意筆の絵手本あり

絵馬「神馬図」（洞意筆、高知市一宮土佐神社）

九月五日、次男俊三郎生まれる

長男房太郎は藩御用表具師美吉家の養子となる
 天満宮九百五十年祭に河田小龍と競作し『玉藻の前』を描く
 南海大地震起き「土佐震災図絵」を描く
 河田小龍『漂異記略』を藩主に献上

美吉家の養子房太郎は美吉家八代目を継ぐ

島本蘭溪没（八四）

大坂に出て藩州に旅するか『岩井孫六日記』十月六日

美術・一般

北斎漫画初編刊

司馬江漢没（七二）

歟形蕙齋没（六一）

山内容堂生まれる

武市半平太生まれる

河鍋暁齋生まれる

北斎『富獄三十六景』開板

橋本雅邦生まれる

坂本龍馬生まれる

大塩平八郎の乱

天保の改革、儉約令

河竹黙阿弥、作者活動再開

山内容堂藩主となる

葛飾北斎没（九〇）

中浜万次郎帰国

ペリー、浦賀に来航

八世市川団十郎自殺

和暦	西暦	千支	西暦	年齢	事項／絵金と土佐美術	美術・一般
和暦	西暦	千支	西暦	年齢	事項／絵金と土佐美術	美術・一般
安政 五年	1858	戊午	1858	47歳	おおつちよう 月山大志堂の天井画（友竹斎筆）を描く	安藤広重没（六一）
万延 元年	1860	庚申	1860	49歳	しばい えびようが ひがしやまさくろせうし さくらせうごこわか かたやまんまんぐう なんごくし ほうのう 芝居絵屏風『東山桜荘子 佐倉宗吾子別れ』が片山天満宮（南国市）に奉納される	桜田門外の変
文久 元年	1861	辛酉	1861	50歳	えま 「そうしゅんべんけいしやうきす とういひつ こうちけんりつれきしみんぞくりようかん 絵馬『昌俊弁慶相騎図』（洞意筆、高知県立歴史民俗資料館）	土佐勤王党結成
文久 二年	1862	壬戌	1862	51歳	ふるやちくげんぼつ 74 古屋竹原没（七四）	歌川国芳没（六五）
文久 三年	1863	癸亥	1863	52歳	えま 「そがころろ ず ゆうちうさいよしたかひつ こうちしいつくとさじじや 絵馬『曾我五郎の図』（友竹斎美高筆、高知市一宮土佐神社）	坂本龍馬ら脱藩
慶応 元年	1865	乙丑	1865	54歳	11がつ ひろせしゅんざぶろう あしがる 一月、弘瀬俊三郎、足軽となる	天誅組の乱
慶応 二年	1866	丙寅	1866	55歳	えま 「いちのたにかたばぐんきす ゆうちくひつ かがみちようとおうじじやくいちおうじやう 絵馬『一谷嫩軍記図』（友竹筆、香我美町徳王子若一王子宮）	武市半平太、獄中にて切腹（三七）
慶応 三年	1867	丁卯	1867	56歳	えま 「はしほひでし さくまもりまさ ず ゆうちうさいひつ ちよう あまのいはとわけやすくたまぬしまつかみやしろ 絵馬『羽柴秀吉、佐久馬盛政の図』（友竹斎筆、いの町神谷 天石門別安国玉主 天神社）	伊ギリス船、浦戸入港
明治 元年	1868	戊辰	1868	57歳	えま 「たからかみず ゆうちくひつ ちようだいこくぎもとじんじや 絵馬『宝袋図』（友竹筆、いの町 大國楯本神社）	大政奉還。坂本龍馬（三三）
明治 二年	1869	己巳	1869	58歳	このころ高知蓮池町に住み、雀七と名のる	中岡慎太郎（三〇）暗殺
明治 四年	1871	辛未	1871	60歳	えま 「しずがたけしちほんやりす ゆうちくさいやくおうひつ げいせいむらにいだじんじや 絵馬『賤ヶ岳七本槍図』（友竹斎雀翁筆、芸西村仁井田神社）	廃藩置県
明治 五年	1872	壬申	1872	61歳	みがすいせきぼつ 82 壬生水石没（八二）	壬申戸籍を実施
明治 六年	1873	癸酉	1873	62歳	ちゆうふう わずら ひだりて か 中風を患い、しばらく左手で書く	徴兵令
明治 八年	1875	乙亥	1875	64歳	えま 「しずがたけす ゆうちくひつ ちようかみやあまのいはとわけやすくたまぬしまつかみやしろ 絵馬『賤ヶ岳図』（友竹筆、いの町神谷 天石門別安国玉主 天神社）	三代鳥居清忠没（五九）
明治 九年	1878	丙子	1878	65歳	でしみやがわゆせんさいにゆうちん 弟子宮川友川齋入門	工部美術学校開設
明治 一二年	1879	己卯	1879	67歳	くにしわしんくろう しょうぎどう かいせつ 國澤新九郎、彰技堂を開設	
					3がつ8にちしきよ なんごくし にちれんしゆほんしやうじ そうぎ かいみよう きんさいいんしやうじつじやくおう 三月八日死去、南国市の日蓮宗本正寺で葬儀、戒名は錦糸院誠道雀翁	
					7がつ22にち つまはつぎくしきよ 62 10がつ ゆうちくさいめおとはか しんしゆうじさんちゆう ぼち けんりつ 七月二十二日、妻初菊死去（六二）一〇月「友竹齋夫婦墓」が真宗寺山中の墓地に建立される	